

葛城地区で二次救急輪番が始まります

少子高齢化が急速に進む中、地域医療構想の策定を行う県の行政指導などにより、奈良県全体の救急医療体制は、急速に整備されてきました。

しかし、残念なことに、中和医療圏西側の葛城地区の救急医療が取り残された形になっています。奈良県において、この地域は※1 救急応需率が最も低く、また平均紹介時間が最も長くなってしまいました。すなわち救急車の受け入れが最も悪い地域であることとなります。葛城地区は、大和高田市、香芝市、葛城市、御所市、広陵町の4市1町からなり、2015年の統計では、23万9千人余りと非常に多くの人口を有します。以上のことから救急体制の整備が喫緊の課題となっていました。

そのため、葛城地区内の6病院と4市1町の行政が協力して、※2 二次救急輪番体制を敷くことになりました。6病院は、土庫病院、中井記念病院、吉本病院、香芝生喜病院、御所済生会病院、そして大和高田市立病院です。

本年4月から試行段階ではありますが、二次救急輪番を開始することになりました。対象は成人で、内科・外科疾患に対応します。各病院は、輪番にあたった日に人員を揃えて、救急応需を行う方針です。ただ、いずれの病院も、あらゆる診療科が揃っている訳ではありませんので、すべての患者さんを受け入れることはできません。奈良県立医科大学や救急隊と協力して、可能な限り応需していければと考えています。

地域の皆さんには、二次救急輪番の応需状況について温かく見守ってもらえると幸いです。最終的には、輪番病院を構成する病病連携が基盤となって、在宅患者さんの受け皿となることをめざしています。

二次救急輪番開始によって、葛城地区の救急医療の課題がすべて解決する訳ではありませんが、各病院が協力し合って、より良い医療をめざしますので、支援をお願い致します。

※1 救急応需率：受け入れ要請のうち、受け入れをした割合

※2 二次救急輪番体制：手術や入院が必要な患者に対応する救急医療を地域内の病院群が連携して、輪番制により休日・夜間などにおける重症救急患者の診察を受け入れる体制

大和高田市立病院 院長 岡村隆仁